

「あなたは誰と涙を流しますか？」

2021年3月

高校宗教主事 土井 直彦

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙12章15節)

3月は卒業の時期であり、次なる「出会い」に備える時でもあります。本年は歴史的にも大きな出来事とも言えるコロナウィルスの影響で、学校の行事や式典も延期や中止、規模の縮小が求められました。それは本校だけでなく、世界的な規模で求められる事柄でした。

日常生活が制限されるそんな中でも、清教学園では幼稚園・中学・高等学校とそれぞれができる工夫を行い、一年を過ごしてきました。

特にこれからこの学舎を卒業していく第51期の高校3年生に対しては、自分たちの新しい「生きるべき場所」でも、神さまの守りと導きがこれからも続きますようにと切に祈るばかりです。

さて、清教学園はその歴史を紐解くと戦後の荒廃の時にあって、キリストの教えを土台とした新しい教育の形を求める若い人々の想いによって誕生した学校です。資金も機会も、方法すら乏しかった中で、彼らが求めたのは「キリストによる平和」です。そして、それは本校の「目指す人間像」として、現在も本学園の教育の指針となっています。

今月の聖句は、ローマの信徒への手紙15章にある「キリスト教的生活の規範」からの抜粋です。聖書は私たちがどのように生活するかを様々に示す中で、シンプルに「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」と示しています。それは、誰かの喜ぶことを為していくことでもなく、泣く人に慰めを与えることでもありません。どちらかがどちらかに「してあげる」のではなく、共に心を近づけ、想いを分かち合うこと、その時に心から沸き上がることを大切にしたいことを求めています。

戦乱の荒廃から立ち上がることから動き出した清教学園の始まりは、隣人、隣国と手を携えて歩むことを求めています。

一年の区切りを迎える3月に、これまでをふり返り、自分が誰と共に歩んできたのか、またこれからは誰と共に歩んでいこうとするのか深く考え、想起する時としたいと思います。